

＝文化体育共同事業＝

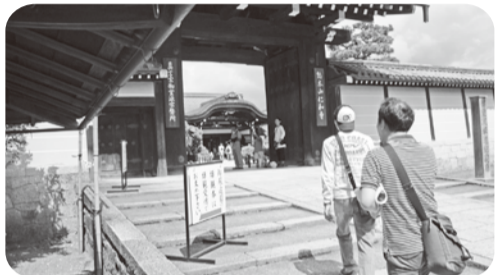
～ウォークラリーで世界遺産を巡る～



国宝金堂前がチェックポイント



金剛力士(仁王様)が2体?



～仁和寺御殿入口～



…仁和寺御殿北庭にて…



お孫さんとハイポーズ



まだまだ元気があります



…龍安寺石庭…



世界遺産金閣鹿苑寺石碑



○○○○ 出発前の集合 ○○○○



龍安寺入口



名勝御室桜



…私たち文体役員がお世話しました…



大徳寺ゴール前



♡夫婦仲良く歩きました♡



👉親子で頑張りました👈



☆金色が眩しい金閣☆

二〇一一年七月二日(土) 厚生会主催の文化体育共同事業「スタンプウォークラリー」を開催しました。今回のウォークラリーは、身近に存在しながらなかなか行くことのない「世界遺産」を巡ることを目的に、朝八時半に太秦天神川駅に総勢四十九名が集合、市バス特八号に乗り、一路、福王子に向けて出発しました。真夏の太陽光線が照りつける猛暑の中での開催になりましたが、一行はタオルと飲料水を片手に元気にスタートしていきました。福王子のバス停からは第一チェックポイントである仁和寺(徳川幕府三代将軍・家光によって建立された)に向かい、重要文化財の仁王門と御殿の拝観そして国宝の金堂を見学し、次の目的地である龍安寺に向かいました。第二チェックポイントである龍安寺は、大きな四つの謎「刻印の謎(永遠のミステリー)・作庭の謎(芸術作品)・遠近の謎(高度な設計と演出)・土堀の謎(名画のフレーム)」が秘められており、参加者は謎解きをしながら緑側に腰を下ろし立派な石庭を眺めていました。ただ、この辺りから気温もぐんぐん上昇し、参加者の中には体力の限界を感じたのか、次のチェックポイント

までバスでの移動に変更された方も見受けられました。第三チェックポイントには京都が世界に誇る鹿苑寺(金閣寺)。北山文化の象徴として国内外に知られる名刹で、鏡湖池に臨む三層の楼閣は二層・三層に金箔をはった室町期楼閣建築の代表的例です。現在の金閣は昭和二十五年に火災で焼失したものを再建したのですが、それでも煌びやかな存在に皆さん感動していました。金閣寺からはゴール地点の大徳寺を目指して頑張って歩きましたが皆さん大変お疲れの様子でした。今回も参加者の皆様にケガなく一日を過ごしていただいたとともに、役員の皆さん全員にお手伝いいただき感謝申し上げます。暑い中を歩きました。生ビールを一杯に飲む瞬間はたまらな



京都交通労働組合

電話(075)841-0948

発行者 瀬戸高志

編集者 佐田 悟

- ・一面
- ・ウォークラリーで世界遺産を巡る
- ・都夢ちゃんのひとり言
- ・教宣部員のつぶやき
- ・二面
- ・平成22年度決算概要について

教宣部員のつぶやき

都夢ちゃんのひとり言

平成二十二年紅葉の秋、九条支部に写真部が誕生しました。当時五・六人の愛好家が立ち上がった写真部は、多くの方に興味を持っていただき「秋を感じる」をテーマとした「秋を感じる」をテーマとしたところ、十数点の作品が集まり組合員の方々の投票で金賞・銀賞・銅賞を決め、大変盛り上がり上々の滑り出しとなりました。続く二回目では「市バス」をテーマに募集したところ、バスが走っている風景や車庫に留置されている様子や一度に数台まとめてワンショットの市バスを本物そっくりのように、またプラモデルの市バスを本物そっくりのように、そして雪道を寒そうに走る市バス等様々な作品が発表されました。三月には「春のあたたかさ」をテーマに、京都の名所を巡る桜風景を中心とした多数の作品が発表されました。このように回を追うごとに組合員の関心が高まり、写真部「写人」も盛んになってきました。お近くにお寄りの際は是非、九条支部「写人ギャラリー」にお立ち寄りください。

北川 博



ギャラリーを設置しています



写真部特製Tシャツ「写人」

携帯コンテンツ「着うた」初の減に
総務省は七月十五日、二〇一〇年の携帯電話向けコンテンツの市場規模が前年比一七・〇%増の六四六五億円だったとの調査結果を発表した。ただ、着信音用に楽曲を配信する「着うた」は五・七%減の一三三三億円となり、調査を開始した〇三年以降で初の減少に転じた。着うたの失速は、他の音楽配信サービスとの競争激化が一因とみられる。一方、インターネット交流サイト(SNS)関連の市場規模は、サイト上で使うアバター(仮想空間上の分身)などの販売が伸びたことから、三・一倍の一三八九億円に急拡大した。

・・・平成22年度決算概要について・・・

第1 自動車運送事業

経常収入	208億94百万円
経常支出	186億83百万円
経常損益	22億11百万円
△累積欠損金	△65億41百万円
△累積資金不足	△70億30百万円

8年連続黒字

<主な業務量等>

年度末在籍車両数	760両 (760両)
走行キロ数	80.4千km 〔1日平均〕(80.3千km)
旅客数	314千人 〔1日平均〕(311千人)
職員数	801人 (773人)



注1 ()内は、平成21年度の数値である。
注2 22年度の職員数は、派遣職員から直営化した40人を含む。

1 決算のポイント
平成22年度決算は、記録的な猛暑や東日本大震災の影響はあったものの、お客様の利便性向上に向けたダイヤ改正の効果もあり、旅客数は前年度を3千人上回ることも、バス車両更新台数の抑制や経費の削減に努めたことなど、経営健全化計画に掲げた収入増加策やコスト削減策などの取組を着実に推進したことにより、経常損益は、平成15年度から8年連続の黒字(22億円11百万円)となった。

2 主要事項

(1) 収入増加策

ア お客様の利便性向上に向けた市バス運行の充実

〔22年3月実施〕

- ・河原町通における増便及び等間隔運行の実施
- ・鉄道との乗継利便性向上(洛西地域)

〔23年3月実施〕

- ・地下鉄をはじめとする鉄道との乗継利便性向上(地下鉄北大路駅・JR京都駅など)
- ・堀川通での利便性向上
- ・東山通方面からの京都駅への運行充実

イ バス待ち環境の向上

広告付きバス停上屋による整備を促進するなど、バス停上屋・ベンチを充実

ウ 走行環境の改善

市バスの安全かつ円滑な走行に向け、関係機関の協力の下、走行環境改善に取り組むため、ドライブレコーダー(20台)を導入

エ お客様サービスの向上

・市バス時刻表の文字拡大や、「洛バス」車内案内表示の4箇国語多言語化等を実施

・子育て支援の一環として、市バスにベビーカーの固定ベルトを設置し、ベビーカーを折りたたみずに乗車できるよう乗車方法を変更

(2) コスト削減策

ア 総人件費の削減

バス運転士の嘱託化の推進や給料カットの継続など

イ バス車両購入費の削減

更新年数を14年から18年へ延伸し、個々の車両状態を徹底的に点検精査のうえ、更新車両数を2両に抑制

3 財政状況

項目	前年度決算比較(消費税抜額)		
	21年度決算	22年度決算	増△減
営業収益	186.74	187.62	88
運送収益	175.21	176.23	1.02
その他	11.53	11.39	△1.14
営業外収益	26.54	21.32	△5.22
営業収入計	213.28	208.94	△4.34
営業費用	191.71	183.66	△8.05
経常人件費	68.20	70.65	2.45
退職手当	14.77	13.02	△1.75
経費	88.25	83.57	△4.68
減価償却費等	20.49	16.42	△4.07
営業外費用	3.18	3.17	△0.01
支出計	194.89	186.83	△8.06
差引	18.39	22.11	3.72
特別損益	10.84	0	△10.84
再差引(純損益)	29.23	22.11	△7.12
利益剰余金(△累積欠損金)	△87.52	△65.41	22.11
資本的収入	7.54	8.03	49
資本的支出	30.34	31.01	67
差引	△22.80	△22.98	△0.18
累積資金不足	△85.85	△70.30	15.55

資金不足比率 21年度決算 45.9% 22年度決算 37.4%

4 企業債の状況

項目	年度	年度内増△減			22年度末未償還残高
		21年度末未償還残高	発行額	償還額	
建設企業債	億:百万円	億:百万円	億:百万円	億:百万円	億:百万円
	95:46	7:64	23:27	△15:63	79:83

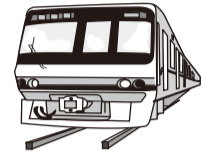
第2 高速鉄道事業

経常収入	268億90百万円
経常支出	354億64百万円
経常損益	△85億74百万円
現金収支(償却前損益)	43億7百万円
△累積欠損金	△3,283億87百万円
△累積資金不足	△309億15百万円

順調です

<主な業務量等>

年度末在籍車両数	222両[37編成] (222両[37編成])
走行キロ数	56.9千km 〔1日平均〕(56.0千km)
旅客数	330千人 〔1日平均〕(327千人)
職員数	581人 (564人)



注1 ()内は、平成21年度の数値である。
注2 22年度の職員数は、派遣職員から直営化した23人を含む。

1 決算のポイント
平成22年度決算は、記録的な猛暑や東日本大震災の影響はあったものの、10月にオープンした「Kotochika 四条」や駅周辺の大型店舗の開業等の効果もあり、旅客数が前年度より3千人増加するとともに、駅職員業務の一部民間委託化や経費削減に努めたことなど、経営健全化計画に掲げた収入増加策やコスト削減策などの取組を着実に推進したことにより、経常損益は、平成21年度より31億37百万円改善し、85億74百万円の赤字となった。

また、現金収支は43億7百万円の黒字となり、前年度より黒字額が27億26百万円拡大した。

2 主要事項

(1) 収入増加策

ア 全庁を挙げた旅客増の取組

副市長を本部長とする「地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、全庁挙げて増客に取り組むとともに、「若手職員増客チーム」を設置

イ ダイヤの充実(22年3月実施)

烏丸御池駅での最終列車の全方向一斉発車(シンデレラクロス)及び夜間ダイヤの増便・等間隔運行

ウ 駅ナカビジネスの拡大

新たな商業スペース「Kotochika 四条」の開業や、烏丸御池駅の店舗設置工事の着手(23年5月16日開業)など駅ナカビジネスの積極的展開

エ お客様サービスの向上

子育て支援の一環として、地下鉄全駅で男性・女性を問わずオムツ替えができるよう、男性用トイレ(新たに8駅)へのベビーベッドの設置

(2) コスト削減策

駅職員業務の一部民間委託化の拡大による職員数削減、給料カットの継続など

(3) 一般会計支援の拡充

ア 国制度の拡充に基づく一般会計からの経営健全化対策出資金の増額

イ 市バス事業への補助金の削減を財源とした高資本費対策補助金の創設

(4) 安全で快適な地下鉄の運行

ア 車両安全対策の実施(自動列車停止装置等の改良)及び階段踊場の点字タイル、手摺の増設

イ 烏丸線ホームでの列車接近警報音の放送開始及び案内放送の上下線別音声への変更

3 財政状況

項目	前年度決算比較(消費税抜額)		
	21年度決算	22年度決算	増△減
営業収益	230.77	234.16	3.39
運輸収益	216.01	218.60	2.59
その他	14.76	15.56	80
営業外収益	31.37	34.74	3.37
営業収入計	262.14	268.90	6.76
営業費用	259.34	248.59	△10.75
経常人件費	49.40	52.39	2.99
退職手当	9.55	7.23	△2.32
経費	65.89	58.17	△7.72
減価償却費等	134.50	130.80	△3.70
営業外費用	119.91	106.05	△13.86
支出計	379.25	354.64	△24.61
差引	△117.11	△85.74	31.37
現金収支(償却前損益)	15.81	43.07	27.26
特別損益	△33.16	△4.94	28.22
再差引(純損益)	△150.27	△90.68	59.59
利益剰余金(△累積欠損金)	△3,193.19	△3,283.87	△90.68
資本的収入	417.05	263.48	△153.57
資本的支出	496.55	307.43	△189.12
差引	△79.50	△43.95	35.55
△累積資金不足	△309.83 (△264.27)	△309.15 (△178.44)	68 (85.83)

注 「△累積資金不足」欄の下段()内は、財政健全化法における資金不足額である。

資金不足比率 21年度決算 114.5% 22年度決算 76.2%

4 企業債の状況

項目	年度	年度内増△減			22年度末未償還残高
		21年度末未償還残高	発行額	償還額	
建設企業債	億:百万円	億:百万円	億:百万円	億:百万円	億:百万円
	2,526:73	14:79	187:49	△172:70	2,354:03
出資債	32	0	0	0	32
特例債	151:38	9:25	22:49	△13:24	138:14
資本費平準化債	303:12	102:58	0	102:58	405:70
資本費負担緩和分企業債	875:82	0	16:72	△16:72	859:10
小計	3,857:37	126:62	226:70	△100:08	3,757:29
鉄道・運輸機構借入金	523:56	0	48:65	△48:65	474:91
長期借入金	446:86	0	8:36	△8:36	438:50
合計	4,827:79	126:62	283:71	△157:09	4,670:70